

環太平洋大学

(シラバス)

授業科目名:家庭・地域間コミュニケーション論				担当教員氏名:村田 久	
履修年次:3~4	単位数:2	開講期:前期	コマ数:1		
【授業の目的】					
<p>今日の課題の1つは、子どもを育成する家庭・地域間のコミュニケーションの質が低下してきていることである。 次世代教育を担う教育者・保育者は、学校や園内のコミュニケーションの量や質を高めるだけでなく、学校や園を取り囲む家庭や地域コミュニティに属する人々との人間関係を密にする能力が切実に求められている。 保護者や子ども・教師や保育者が体験する人間関係のトラブルの例を紹介しながら、家庭・地域間コミュニケーションを考えてみる。</p>					
【授業内容】					
(テ ー マ)			(授 業 内 容)		
1オリエンテーション			授業の意義と学ぶ内容についての概論		
2地域社会とは何だろう			地域あるいは地域社会という言葉の定義を確認し、その意味内容を確定する		
3地域に生きる集団とネットワーク			地域を空間的に枠づけている制度について考える		
4地域における家族という視点			地域の中の子育て支援システムを考える		
5地域の子育て力の現状と課題			コミュニティ崩壊と再生への取り組みについて、「児童虐待」、「発達障害」の事例等から考える		
6小括			事例についてのディスカッション		
7子どもの育成環境としての地域			地域の多様性と子どもの人間形成		
8学校と地域			就学期の子どもを持つ家庭にとっての学校と地域という問題を取り上げる		
9高齢化と地域社会			高齢者のライフスタイルの変容と地域社会のあり方の変化		
10エスニック集団と地域社会			同じ地域社会で暮らす日本人と外国人はどのような関係を築くことができるのかを考える		
11小括			事例についてのディスカッション		
12家庭の中のコミュニケーション			虐待、DVなどの家族間の問題とコミュニケーションを考える		
13家庭と地域のコミュニケーション			家庭と地域のコミュニケーションの現状とこれからの課題・展望		
14 家庭と地域をつなぐ制度と組織			既存のコミュニティ行政の限界と新しいコミュニティ形成		
15まとめ			まとめ		
【テキスト】					
【参考図書】					
【成績評価の方法】					
授業態度 40%、定期試験 50%、レポート 10%					

授業科目名:子どもの心を開くコミュニケーションスキル				担当教員氏名:住本克彦	
履修年次:1~4	単位数:1	開講期:後期	コマ数:1		
【授業の目的】					
<p>本講義では、将来教師になる学生に、子どもと向き合えるコミュニケーションの技術や、子どものコミュニケーションを援助する方法などに関する基礎的知識を理解することを目的とする。</p>					
【授業内容】					
(テ ー マ)			(授 業 内 容)		
1 コミュニケーションスキルとは			授業の全体を概観し、コミュニケーションスキルについて理解する。		
2 カウンセリング概論			開発的カウンセリングについて理解する。		
3 構成的グループエンカウンター(1)			構成的グループエンカウンターを体験から学ぶ(1)。		
4 構成的グループエンカウンター(2)			構成的グループエンカウンターを体験から学ぶ(2)。		
5 構成的グループエンカウンター(3)			構成的グループエンカウンターを体験から学ぶ(3)。		
6 ピアヘルピングの技法(1)			ピアヘルピングを体験から学ぶ(1)。		
7 ピアヘルピングの技法(2)			ピアヘルピングを体験から学ぶ(2)。		
8 ピアヘルピングの技法(3)			ピアヘルピングを体験から学ぶ(3)。		
9 自己開示トレーニング(1)			自己開示トレーニングから学ぶ(1)。		
10 自己開示トレーニング(2)			自己開示トレーニングから学ぶ(2)。		
11 自己開示トレーニング(3)			自己開示トレーニングから学ぶ(3)。		
12 アサーショントレーニング(1)			アサーショントレーニングから学ぶ(1)。		
13 アサーショントレーニング(2)			アサーショントレーニングから学ぶ(2)。		
14 実践する際の課題と留意点			実践する際の課題と留意点について理解する。		
15 到達度確認とまとめ			授業の総括をする。		
【テキスト】					
「ピアヘルパーハンドブック」 日本教育カウンセラー協会(2001) 図書文化社 1,500円					
【参考図書】					
必要に応じて授業中に紹介する。					
【成績評価の方法】					
出席状況、課題提出、授業態度等で「関心・意欲・態度」30%、レポート内容、到達度評価等で「知識・理解」70%、両方を総括し、評価する。					

授業科目名: 体育社会学				担当教員氏名: 山本 孔一	
履修年次: 2~4	単位数: 2	開講期: 前期	コマ数: 1		
【授業の目的】					
<p>現在、スポーツは多様な場面で展開され、もはやその存在しない社会や文化が考えられないほど、強大な社会現象となっている。こうした現代におけるスポーツのあり方やそこから派生する諸問題などについて、どのように捉え、どのように理解するかは、種々のスポーツ指導者を目指す者にとって、専門性にかかわる基礎的教養として重要な意味をもっている。本講義では現代スポーツの文化的側面を主として社会的な視点から検討する。</p>					
【授業内容】					
(テ ー マ)			(授 業 内 容)		
1スポーツ社会学の必要性			スポーツ指導の専門性とスポーツ社会学の必要性		
2スポーツの社会的理解			スポーツをどのようにとらえ、考えるか		
3スポーツの文化システム			スポーツに対する文化的偏見		
4スポーツの社会システム			スポーツ集団の社会システム		
5スポーツと政治・経済			スポーツは誰のものか		
6日本人のスポーツ観			スポーツ観の分析の四つのアプローチ		
7日本的スポーツ集団の形成とその性格			多様な地域のスポーツ集団の状況と問題		
8日本的スポーツ組織の歴史的・社会的性格			スポーツ組織について		
9生涯スポーツ、コミュニティスポーツを考える			社会教育からコミュニティスポーツへ		
10日本のスポーツ政策			日本のスポーツ政策の問題点		
11スポーツとコマーシャルイズム			選手は走る広告塔なのか		
12スポーツと社会化			スポーツ的役割を学んでいくとはどういうことか		
13体育の社会的構造と機能			体育はなぜ存在するか		
14体育の学習指導過程			体育の学習はどのように進められるか		
15スポーツ社会学の課題			身近な旬な話題から課題発見		
【テキスト】					
なし					
【参考図書】					
「スポーツ社会学講義」 森川・佐伯編著(大修館書店)					
「講座・スポーツの社会学」池田勝・守能信次編(杏林書院)					
【成績評価の方法】					
出席と受講態度、小テスト・レポート・定期試験で総合的に評価					